

2015年7月19日  
茨城キリスト教大学  
日本語技術教育学会  
第25回茨城大会  
アンケート

- 注1 参加者146人、アンケート36枚。  
1～36の番号をつけ項目ごとに表示  
しました。
- 注2 表記は明瞭な誤字を修正したほかは、  
記述通り。
- 注3 「と思います」の語は省きました。

第一部 模擬授業（和の文化を受けつぐー和菓子  
をさぐるー）とその検討

(1) 授業I（授業者・松澤正仁）

- 1 この授業の受講者の質が低いのが、気になりました。
- 2 「ちがう」ということをはっきり言うべきか、  
評価すべきかを考えさせられました。
- 3 「ちがう」ことを「ちがう」と示すことは、  
大切だ。今日は時間の制限があったかと思いま  
すが、「なぜちがうのか」を考えさせることが必要  
で、それが「正しく読む」ことにつながるし、「ま  
ちがいを生かす」ことになるのではないか。
- 5 和菓子作りの職人が必要なことを聞くとい  
うことが、内容理解につながり、とてもよい発問  
だ。要約をする時にも修飾語を消す、キーワー  
ドのいらぬものはまとめるなど具体的な指示  
があり、やりやすかったです。
- 6 説明文を要約するなど、先生の指導の仕方が  
明確で、今、何をすべきなのか把握しながら授  
業を受けることができました。発問の仕方など、  
様々なテクニックが参考になりました。
- 7 キーワードということを大切にされており、  
技術と感性という短い言葉（抽象）で出させて  
いて、長い言葉（具体）はキーワードにならない  
ということを明確にされていてよかった。要  
約のポイントをおさえることで書く技術が身に  
つくだろう。
- 8 とてもわかりやすい授業の流れでした。
- 10 言葉、指示がもっとはっきりするとよい。  
「書きましょう」→アンダーラインを引きま  
しょう、とか、言葉に○をつけましょう、とか。
- 12 キーワード抜き出しの時、具体の部分でま  
ちがいを指摘するのであれば、なぜそこがまち

がいなのかを説明してほしかった。「まちがいで  
す」と言うのは文法などでは使いますが、読解  
では使いません。子供たちが喜んで発言できる  
（まちがいを恐れず）雰囲気づくりが大切だ。

13 松沢先生のお人柄が出た温かい授業でした。  
遠慮せずに音読についてもダメなものはダメと  
言って、よかった。

15 「技術、感性」を読み取れなかった子には  
っきり「それは間違い」と言っていて分かりや  
すかった。子供の立場で受けさせてもらいま  
したが、終わった後分かったことが自分の中で明  
確に残り、すっきりとした気持ちになりました。  
できる子には楽しいと思います。「なぜ間違いか」  
を説明するとよりよかった。下位の子にはつら  
いかもかもしれません。

19 緊張した感じの授業で学習者が発言しずら  
かった。よかったのは「要約のさせ方のところ  
で、観点と字数を与え方向性を示したので、子  
どももずっと理解できる」というところです。

20 示された教材は文章だけだったが、これか  
ら求められている学力という点を考えれば、図  
表の扱いについても提案していただきたかった。  
21 要約の書き方が丁寧に説明されていて、勉  
強になりました。

22 論理的文章教材について、どのように指導  
していけばよいのか分からないという教員にと  
って、一つの方法としてとてもよく分かった授  
業提案であった。要約文を書かせる時に、「2文  
から1文を選ばせる」「修飾句を除く」「大事な  
キーワードに線を引く」という方法はとても取  
り組みやすい方法だった。

23 要約（20字）をさせる際に修飾語を取りは  
らう（省く）ことや「和菓子」を主語にするよう  
指示したことは、見える技術となっている。

25 キーワードや要旨をとらえる学習は理解力  
のある児童にはいいかもしれませんが、何も分  
からず見つかからない児童にとっては今回は余  
りにも早いスピードで進みすぎていたので難し  
いかもしれない。

27 いくつかの技術が明確になった授業でした。  
要約のしかたでキーワードを取り出させ、20字  
程度でまとめるという方法はよいが、キーワー  
ドはどれかを出させる、その出させ方が強引だ  
った。

28 短時間でシンプルに実践するというこ  
で、発問、活動が明確であった。「話者」とい  
う考えには多くの解釈がある。要約の仕方がわ  
かりやすかった。

29 要約の際のキーポイントが勉強になりました。

30 説明文を3時間で行うことに驚きました。短くても長すぎても子どもは飽きてしまう。3時間～5時間くらいでできるようになりたい。具体と抽象のところで、「間違いです」と言われたら生徒はショックだろう。わたしとしては、文末に注目して授業をしたい。

31 キーワードを使い、要約をするとどうなるか、20字に要約するにはどうすればよいか、分かりやすく要約する方法が分かりました。3時間でまとめるには、短く答えるにはキーワードがポイントになってくることがわかりました。

32 説明文を読む上でのキーワードとなる接続詞や、文末の表現の大切さを改めて感じました。説明文を今後読みとくための力をこの教材でつけていきたい。

34 要約させるためのポイントが明確でわかりやすかった。

35 児童に要約させることで、教材の理解や、まとめる力につながると感じた。

## (2) 授業Ⅱ (授業者・市毛勝雄)

1 この授業の受講者の質も低い。大学生に受講者役を命じるのではなく、やるきのある現職教員から希望者を募った方が良い授業になる。

2 自分で教材をつくるという視点をいただきました。

3 ・授業でどんな力を身につけさせるかを教師が明らかにしていることの大切さを感じました。私自身は書きかえは賛同できません。わかりにくい文章なら、そのわかりにくさはどこなのか考えさせるべきです。5年生なら5年生なりに、その文章から読み取らせる方がいいのではないのでしょうか。・「意欲を高める」と「どれも正解」は別です。やはり「点心とは」では不十分な答えです。不十分な点を一歩ふみ込んで考えさせることが「正しくよむ」「わかる」につながり、本当の意味での意欲につながります。

5 子ども達の気持ちを考えた良い授業だった。訂正をして子どもをほめることは、子ども達も自信を持つことができる。読み方のリズムがあった時の気持ちや体験が、とても大切です。

6 先生がワークシートをつくって教科書の代わりをするということがとても新しかった。教科書を使って教えるという概念を壊された気がします。良い授業をつくるために、教師が工夫して努力していかなければと感じました。

7 教材をそのままおしえるのではなく、先生自身が重要なところをふまえて書きかえていて、子ども役がスムーズに段落に名前をつけていた。大事なところに焦点をしばった授業であった。

8 もう少し、授業を見たかったです。かなり高度な授業だ。(指導者に力が必要)

10 書けない子の指導は？

11 説明文の資料を段落に分けて、段落に名前をつけるやり方がとても参考になりました。音読のリズムに関しても、私自身もリズムがそろってきれいだなと感じました。2学期からの国語に生かしていきたいです。ありがとうございます。

13 「部分的リライト教材」の考え方を学びました。

15 段落二・1の題が「和菓子の歴史」でよかったのでしょうか。「唐菓子の歴史(についての説明)」の方がふさわしいのではないかと。二・1～5までのまとまりの題が「和菓子の歴史」だと思っております。自分ならそのように教えます。文章の構造を見たら明らかではないのでしょうか。

16 ・リライトに適した教材とそうでない教材の違いはなにか。・学習指導要領にのっとった指導項目を満足させるという目的によって、学習材も変化するのは当然と思われる。原作をなぜこのように変えたのかを考えると批判的思考力が育つと思われる。

19 久しぶりに授業を見てなつかしかった。音読から小見出しを考え、板書させるのは、学習者にとって楽しいものとなり、心をゆさぶられ、わかりやすい授業になる。自分の中で確認できることがたくさんありました。

21 ・台詞が書かれた指導案による授業を見て、自分でも同じことができそうだと思えました。・子どもをほめてやる気を引き出す手法を実際に見られてよかったです。

22 リライトは、論理的文章教材の初歩であったら有効な方法なのかもしれない。だが、それを高学年までずっとというのは、どうなのだろうか？それで論理的文章が読めるようになるのだろうかという疑問が残る。

23 「書くこと」というゴールに向けて、子どもたちがそのモデルにできる教材を提示するために、リライト教材を作成するという考えには賛成です。

25 見出しを考え検討する場で書けない児童への手立てが難しい。全てを良しとしては、本来の読む力が身につかないのではないかと。

27 書くために読むという方針が明確で、わかりやすかった。複数の生徒に板書させ、先生が添削する方法は有効だ。生徒役の声読は遅いと感じたが、市毛先生がほめて励まし、少しずつ上達する様子は、教室も同様である。

28 やる気が引き出されやすいと感じた。

29 「受け」の授業ということで、児童役も楽しそうな授業でした。

30 論理的文章を書くために読む。そのために指導項目を3項目に気をつけて授業を行いたいと思いました。リライト驚きました。多少の間違いは気にせず、直して◎をつけてあげるとは自信につながると感じました。

31 黒板に板書をして○や◎をつける指導は、やる気や意欲を高めるために大事なのだ。間違いを恐れて発表や板書をしないということのないように、自信をつけてあげられるようになりたい。

32 授業を進めていく上で大切な指導、子供たちへの接し方を学ぶことができました。「論理的文章を書く」(p22)がとても勉強になりました。さっそく指導に生かしたい。

34 リライト教材を使用した授業で、キーワードを中心に読みといていく、というのが興味深かったです。

35 児童との関わりがとても勉強になった。自分の授業に少しでも取り入れていきたい。

36 教材をリメイクされ、論理の構造がひじょうに明快になっていました。生徒に指導しやすい教材というものを改めて意識したい。

### (3) 提案授業の検討

(司会 柳谷直明：今井東・小森茂・照井孝司  
・中村孝一)

2 様々な意見を聞いて楽しかった。もっと時間がほしかった。

3 日々まよいながら授業していますが、登壇なさるような先生方でもいろいろな考え方あることが改めて分かりました。

4 説明文における言語技術について、もう一度考えさせられました。音読も、なかなか現場ではできないので、もう一度見直したい。

5 普段では聞くことのできない先生方の話を聞くことができ、とても貴重なお話を聞くことができ、とてもよかった。

6 様々な先生の意見を聞いて、みなさんが国語の授業を真剣に向き合い、とてもレベルの高い場に自分もいるんだと思い、感動しました。

7 授業者によって考え方や教材の見方が異なり、教材研究のむずかしさを感じた。先生方の討論をふまえ、自分なりに教材の見方を勉強していこうと思った。

8 議論が深まり、とても有意義な検討会になりました。

9 要約をする時や段落の題名をつける時にキーワードをどう見つけたら良いかという質問に対して、先生は経験的にやるとおっしゃっていましたが、私は体系化できると考えています。それにそれを体系化しないと言語技術を生徒に身につけさせることはできない。

10 おもしろい。

13 大会のテーマに即した授業の検討になっていたか。

15 読む→書くを意識した授業という意識が新鮮でした。ただ単元を貫く言語活動があり、最後に「報告」の文章を書くと思いますが、先生が心配されているように、本の言葉を引用しすぎて自分の言葉で書かない子も多くいると思われれます。文の構造だけでなく、語いをふやし表現力も子どもの力として身につけさせたいと感じました。

16 「単元を貫く言語活動」は、その理念が正しく作用すれば力がつくと思われる。(正しく作用しないから問題なのである)言語技術教育学会が目ざすものと全く別物だとは思っていない。

19 リライトは場合によってはよい。教育するために子どもに分かりやすく教材を与えることは必要なことだ。若い人でもマネられる授業を目指すのが国語教育にとってプラスになる。

20 小森先生の考える「活用」の具体例を教えてくださいました。

21 説明文を読む目的(目標)の設定の仕方やリライトの是非など、考えさせられることが多くありました。

22 巷でよく言われている「単元を貫く言語活動」については、日常の実践の中ですっきりしないところがある。何の力をつけたいのか、ということがやはり大切なのではないかと、検討会を拝聴しながら感じた。

24 問いと答えを明確にすること。説明文の型(頭括・双括・尾括)が明示されなかった。一人ひとり違うようです。

25 様々な意見を聞いて、とても参考になりました。

26 論理的文章の中でも、難のある(キーワードが取りづらい)文章教材で、どのように教え

るべきか、見通しが立ちました。リライトの方法について、もっとくわしく教えていただきたいです。

27 充実していてよかった。2人の授業者とも内容を教えるのではなく、「読み方」「書き方」を教えるという立場だったので、論点が明確になっていた。市毛先生の話が勉強になった。小森先生の現調査官に対する発言内容は興味深かったが、紀要に論文を出さず、当日に「自分は大造じいさんの担当だと…」と別資料(他の専門誌用の原稿)を出すことは、事務局の運営に手落ちがあったと誤解される怖れがある。

28 子どもたちに身につけさせたい力をどう提案していくのが大事と感じた。

29 素晴らしい方達の討論ということで、聞いていて楽しかったです。

30 言論の自由のすごさを感じた。

31 子どもの解答と教師の指導をどうすれば良いのか、授業中での発言やしかけから言語技術について検討するということが、先生方の話を聞いていて、なるほどそんな考え方もあるのかと思いました。どんどん発言があり、びっくりしました。

32 それぞれの先生方のご意見がたくさん聞いて、良かったです。＼あたりまえ＼だと思って教科書の教材を使っていますが、そうではないと気づかされました。

35 検討者やフロアと様々に意見を交わすことで、多様な視点を持つことができた。

## 第二部 模擬授業(大造じいさんとがん)とその検討

### (1) 授業Ⅲ (岩下修)

1 これも受講者役がひどい。「話者」ということばをきいたことがある人?ない人?どちらも手があがらない。荒れた中学のクラスに用心棒役の管理職や生徒指導の先生が4~5人もいて見張っているの、しかたなし授業妨害しないうでいっているような学習集団だった。

2 ピンポイントで学習部分を取り出し焦点化する。なるほどと思いました。

6 ○、△、×の選択肢を与えることで、自分の意見を理由をつけて行うことができている、全員が参加できている素晴らしい授業だった。

7 内の目、外の目といったように、話者の視点に注目してこの文章を読ませており、とても参考になる見方だなと感じた。固定の視点からで

なく、様々な視点から読みとっていくことが大切だと思った。

8 話者の視点で段落を読み取れるようになり、読み方が深まりました。

10 「話者」から心情の変化を捉える→おもしろい。

13 「話者」を学習者に習得活用させるという明確なねらいがあった。それだけでも価値がある。

15 先生のこの単元に対する強い哲学が伝わってきました。外の目、内の目という観点からの指導も新鮮でした。ただ49段落の見方はいろいろあるのではないのでしょうか。「残雪の目には人間もはやぶさありませんでした」というのは「残雪の目には人間もはやぶさもないようでした」という意味合いで、外の目とも言えるし、はっきり残雪側と言い切れるのか疑問に思いました。少し教師側の読み取りの考えが強すぎる気がしました。

16 岩下先生のおっしゃる視点(内の目、外の目)を用いて作品を読めば、立体的でおもしろいとは思いますが、そのおもしろさを5年生で理解できるかは別問題である。

19 何度かこの教材を授業しましたが、残雪の英雄的な行為は子どもたちの心に残ります。残雪みたいな行動をしたいという感想が自然にたくさんでてきます。だからそれが伝わるような感動的な場面を取り上げたのはよいと思います。

21 段落番号や記号を用いることで、視覚的に学習内容が整理できる方法があることがわかりました。

22 視点という目はとってもおもしろいと思った。ただ「ある部分は外から」「ある部分は内から」という、同じ段落の中でも異なるところは難しい。

23 主人公の心の変容に焦点をあてたのはとてもよかったが、話者(視点)にこだわったのは、必要だったかどうかよくわかりませんでした。視点は扱わなくてもよい。

25 話者ということばのいみのせつ明がなく、変化したかどうかと聞かれても、すぐに読み取れない(児童によっては)

27 昨年と同様、ある程度学力の高い児童を想定した授業だった。話者(内の目、外の目)という用語はあまり聞いたことのない用語で、言語技術としては定着しないだろう。

28 とても細かく、場面が読み取れた。教員のこだわりをどこまで出せるかが、難しいと感じ

た。

29 分析的な読みであり、勉強になりました。「話者の目」の観点が盛りだくさんで、少し難しかった。

30 児童によって少しずつ読み取り（思いの変化）をした部分が違うので、話者（内の目、外の目）を説明することで、より読み取りやすくなるのかと思いました。

31 ○や△、×の記号を使って大造じいさんのがんに対する心情の変化を見つけるというのは初めてだったので、少し考えてからつけましたが、よく読まないと…と思いました。自分が選んだものに対する根拠をしっかりと探すことで、他の考えにも納得しました。

32 各形式段落ごとに心情の変化を言葉から読み取るおもしろさを感じた。これからも一つ一つの言葉を大事に文章を読んでいきたい。

34 話者の視点でとらえたことがなかったので、興味深かったですが、難しく感じました。

35 児童役として参加することができて良かった。体感できた。

36 岩下先生の授業がとてもテンポがよく、わかりやすい授業でした。外の目、内の目について、これからも学び、生徒たちに授業したい。

## (2) 授業Ⅳ (佐藤康子)

1 この授業の受講者役も一斉音読で質が低いことがわかったのですが、佐藤先生は烏合の衆を学習集団として20分の中で励ましてきたえていました。四つの授業の中で最高の授業でした。

2 描写を丁寧に扱う姿勢を学びました。

3 こういう授業ができるようになりたいと思う授業でした。学習者役も変わり、午後になったので何とも言えませんが、午前中の学習者の方々の授業へのとりくみ、発音、音読が全くちがいました。「国語教師」ではなくて、学級担任だからこそ生きる授業でした。

6 全員を指して、また、発表の約束をつくることで、お互いの発表を真剣に聞ける場がつけられていました。発表に対して先生が一言共感してくれるだけで、もっと学びたいという気持ちが喚起されました。

7 全員が1度は発表し、自分なりに言語活動ができる授業であった。子ども役の人の発言から、気づきを共有でき、全体で学びあっている授業だった。またもう一度授業を受けさせていたきたい。

8 子どもに即した授業であった。

10 情景描写からの切りこみ→とてもよい○  
エラーモデルの提示（以下空白）

12 教室の中で展開される豊かな言語活動を体験することができました。佐藤康子先生の生徒に接する指導の中にプロフェッショナルの技を感じました。20分の中で見事に生徒の心をとらえ、教材を深くとらえていました。「言葉にこだわって読む」という（以下空白）

13 新しさは感じなかったのですが、大学の先生方が割合（以下空白）

15 先生の人柄が明るく楽しい雰囲気です。とてもよかったです。大事なポイントもうまく取り上げてあり、よかったです。「らんまん」ところは私も考えたくならないような上手な展開でした。ただ少し情景を重ねてという問いが少し難しい気もしました。子どもが経験を積む必要がありますね。

16 情景を読む技術にしぼった方がよかったです。→心情を読む際に欠かすことはできない。（児童はただの景として読んでしまう）

19 情景描写のたらしめかたが勉強になりました。

21 短時間の授業の中で、あらゆる言語技術の要素を見ることができました。

22 情景描写と心情が簡単に結びつくのかと言われれば、そうではない。このあたりの押さえ方をきちんとしないと、心情読解ばかりに流れていってしまう。ここで身につけさせたい言語技術を何にするか、どうするか、きちんと考えないといけない。

23 情景描写が大造じいさんの心情を表すことがある（心情を表す部分がある）という指導はとてもよくわかりましたが、思い込みで読んでいる子どもがいるので、言葉を根拠に文脈をふまえて読むということも忘れずにいたい。

25 教材に沿って読み取っていたので分かりやすかった。また児童同士で読みを深めていったのでよかった、まさに学び合いです。

27 評価基準が見えなかった。先生は生徒役の発言を決めつけすぎないように気遣っていたが、いわゆる「気持ちが悪くなるほど気持ちを問う」授業の印象である。

28 情景から心情を読み取る活動がよい。

29 テンポ良く進められていて、描写についての授業がなされていて、楽しかった。

30 児童が主体となって授業が進んでいくよう色々なしくみがあるんだなと思いました。情景描写と心情は重なる部分があると思いました。

31 辞書の意味と場面の意味とを考えることで、

大造じいさんの心情を考えられていたので、そうか、その場面ではこの表現にはこのような意味があるのかと納得できました。音読での声かけ、3人ずつの指名など、2学期からすぐに取り入れたい。

32 優れた叙述を読み取り、場面の情景を捉えながら読み進めていくことの大切さ、おもしろさをいつも佐藤先生の授業を拝見させていただくと感じます。今後の指導で言葉のおきかえ、「見ていました」ではなく「見守っていました」の意味等も考えさせたい。

34 実践的で子どもの姿がはっきり見えるような授業でした。内容という要素がたくさんあってわかりずらいところもありました。

### (3) 提案授業の検討

(司会 野口芳宏：光野公司郎・佐藤洋一・長谷川祥子・渡邊洋子)

2 午前と同じく、とっても楽しかったです。

4 三人の先生方のお話をもっと長くうかがいたかったです。

6 様々な意見を聞いて、どれも納得する内容でした。授業のポイントの置き方を自分なりに考えて、自分がやりたい授業を素晴らしい先生を参考にしながらつくっていききたい。

7 野口先生の司会の仕方が非常に特徴的で、様々な意見が出ていて、考えが深まった。しかし、言語技術というテーマよりは、文学的な討論であった。

8 教材観が、これほど参加者によってちがうのかと、びっくりしました。

9 どちらの授業も生徒と先生のやりとりがうまくいっていなかったといえる。生徒の意見に対して、先生は自分のもっていきたい方向にもっていきこうとしていた。その時点で、授業として失敗している。また検討の時、言語技術の話よりも、大造じいさん、残雪のどちらを主人公とするべきかという話になり、本来聞きたいことが聞けなくて、とても残念だった。

10 司会 good

12 教師によって中心人物が変わってよいものでしょうか。誰に教わるかで大きなちがいがでてくるような気がします。この教材であれば、どのような言語技術がとりだせるかというようなことを聞きたかった。初めにこれを教えるのだというのではなく（それを前面に出すのではなく）子どもの発言から取り出ししていく佐藤康子先生の方法に共感しました。

13 第一部以上にテーマに向かって焦点化していくことが出来ずに居た。

15 主人公に生き物はなれないのか？などいろいろ考えさせられました。いろいろな意見のぶつかりあいがあつておもしろかったです。

16 p 36 兵藤先生が述べているように、国語科のための言語技術と授業全体にかかわる授業技術を混同させてはならない。文学部の文学論ではないのだから「作者は死んだ」でよいのではないか。

17 先生方の検討する姿は、児童らの討論会のグッドモデルかなと思ひていました。これからの子どもたちに身につけさせたい力です。

19 いろいろな対立点があつて面白かった。主人公はどちらだとか、書かれた歴史的背景について参考になりました。野口先生の司会ぶりがとてもうまくて楽しかった。

20 野口先生の司会が論点を掘り下げる手法で登壇者の本音が引き出され、興味深く拝聴させていただきました。それだけに教材観論争、主人公論争の時間がもったいなかった。

21 「主人公はどちらか」について多様な考え方があることに驚きました。とても興味深かった。

22 (2)にも関係するが、この教材で子供にどのような言語技術を身につけさせるのかということを考えさせられた。

24 論点が整理できず、消化不良。

25 とても刺激的でした。とても勉強になりました。

26 描写（特に情景描写）の読みとり、中心人物のとらえ方等、言語技術として指導事項を明確にする必要性を感じました。非常に刺激的で勉強になりました。

27 午前と比べ、各先生方の発言の時間の区切り方がはっきりせず、全体に理解しづらかった。野口先生のコメントが多く、思考が分断される時もあった。（兼討論者なのである程度はよいのですが）最後の、長谷川先生と光野先生の考えに賛成する。

28 教材論と子どもたちへの与え方の区別が必要と感じた。

29 文学的な話に近づき、少し難しかったです。

30 大造じいさん、残雪、どちらが主人公なのか、両方なのか、色んなとらえ方があるなど感じました。

31 物語は場面ごとにとらえて読むべきであるという意見と、話者を意識することで場面の見

方が違う（情景が見えてくる）ということが出てきましたが、どんな意見も考えを聞くことで、特に検討する時でも、言語技術はどんなことだろうと考えながら参加することができ、よかったです。

32 それぞれの先生の授業を見る視点、考えを聞くことができ、大変勉強になりました。

33 「主人公の定義」という場面が議題となっていました。子どもの主体性に任せて「学びあい」ができるという授業を聞いて、ぜひ目指したいと思いました。

34 主人公のあつかいについての話が興味深かったのですが、いまいち理解できませんでした。

#### （４）総括討論

（司会 大内善一：鶴田清司・望月善次）

4 三人の先生のお話をもっと長くうかがいたかったです。

6 素晴らしい先生方のお話、また、授業を見ること、受けることができ、本当にいい経験になりました。言語技術ばかり方を再認識できた。

7 言語技術は一体どういうものかと言いつつ、そのためにどんな授業を展開していけばよいかあいまいだったが、総括討論で少し分かった気がします。また是非参加して、先生方の考え方から、自分の考えを明確にしていきたいです。

8 有意義な討論でした。

9 作品には、その作品に合った読み方があるので、全ての作品文章に常に活用できる技術はないという考え方も、たしかにあると思います。しかし、少なくとも説明的文章には体系化できる読み取りの技術があると思います。その技術をその都度選択して文章を読んでいけば、文章の内容理解が深まると思います。しかし、最後に先生が「言語技術とは何かを明らかにすべきだ」といっていたことは、尤もなことだ。

13 前進が見える学会にしたい、と仰った大内先生のお話がありました。大いに期待しております。

16 鶴田先生のお話がシンプルかつわかりやすい（言語技術について）。大内先生の言語技術をまとめた教科書（現段階での）は必要だ。

19 明日の授業ですぐに使いたいと思うような具体的な提案がほしいです。特に国語は難しい点が多いですが。

20 文学の授業、説明文の授業で子どもに見せるべき言語技術、授業技術について教師の視点を与えていただけるような討論をして欲しかった。

た。一般化して欲しかった。

21 言語技術とは何か、どう使い、教えていくかについて考えが深まりました。

22 「技から術（体系）へ」ということがこれから必要だ。

25 良かったです。

26 総括討論が総括になっていないのでは。明日から現場に戻っていく上で、何を頼りに組み立てればよいか、意図をはかりかねた。

28 「言語技術」というものの定義がよくわかった。

29 簡潔であり、分かりやすかったです。

30 知識創造型の授業、子どもたちの中からつくりあげていく（生活経験から引き出していく）授業をしていきたい。

31 視点の問題であり、語り手が対象人物になるなど1人1人意見があり、主張することで話し合いがどんどん進んでいくので、残雪が主人公か大造じいさんが主人公かと言われると、私の中ではどちらだろうと考えてしまいました。討論の中で私はどうなのだろう 正解がはっきりしなくても 考えるうちに自分の考えが持てるような気がしました。

32 言語技術とは何か、先生方のご意見、考え方をたくさん聞くことができ、大変勉強になりました。

33 学生であるので、私はまだ教員ではありません。教員となったときは、子どもの言語技術を高める授業を行うことができるように努めたい。

35 言語技術についてとても勉強になり、意義のある学会のまとめとなり、よかった。

#### Ⅲ 日程・会場・運営について

2 受け付けを早めて始めてもらって、大変助かりました。

4 駐車場係の学生さんたちが、とても丁寧におしえてくれて、安心しました。

6 時間もしっかり守られていて、スムーズに進行し、参加できて本当によかった。

8 会場が少し不便な所でしたが、内容の濃い研究大会だったので、参加のかががありました。どうもありがとうございました。

10 職員旅行と重なって参加できない人がいた。あと1週間遅くてもよかったかも。

11 日程も私はちょうどいい。会場は少し遠いかな。運営していただき、ありがとうございました。

- 12 お世話になりました。
- 13 正直、都心から遠いのは不便です。
- 15 会場がすぐ近くで、とてもよかった。
- 16 日程、よい。会場、快適。運営、お世話になりました。
- 19 きびきびとしていて良かった。
- 20 ・夏休み中の開催で参加しやすかった。  
・年々制限時間を守らない方が増えているように思います。原点に戻って時間厳守で討論を白熱させてほしいと思います。
- 21 例外なく発言に時間制限を設けるのがよかった。
- 22 ありがとうございます。もう少し広い教室で受けられたらよかった。
- 25 とてもよかった。お世話になりました。
- 29 良かったです。
- 31 良かった。
- 34 同じ場面で授業をやってほしかった。
- 36 このような学会に参加させて頂きありがとうございます。

IV この大会をどこで知りましたか。該当する箇所に○をつけてください。(複数回答可)

- |           |    |    |    |    |    |    |
|-----------|----|----|----|----|----|----|
| 1 学会事務局通信 | 8  | 13 | 16 | 20 | 21 | 22 |
|           | 23 | 27 | 29 |    |    |    |
| 2 案内チラシ   | 6  | 7  | 15 | 19 | 25 | 26 |
| 3 雑誌・新聞広告 | 1  | 3  | 18 | 24 |    |    |
| 4 インターネット | 2  | 9  | 14 |    |    |    |
| 5 知人の紹介   | 4  | 5  | 10 | 11 | 12 | 17 |
| (含その他)    | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 36 |

V その他

- 2 都市部での開催を希望します。
- 10 大変おもしろかった。ありがとうございます。
- 13 来年は都心で！
- 15 「単元を貫く言語活動」が重視されすぎて、今日の授業、または指導案をそのまま研究授業には使えないのが残念です。見せるところは言語活動(新聞づくりや交流活動の場面)の部分がよく分かるような授業なので…。でもとても参考になりました。普段の授業にぜひ取り入れてみます。
- 16 久しぶりに参加して、大変勉強になりました。
- 17 国語科の授業に力を入れてみたいと感じた取り組みが多々あり、学習になりました。

- 18 とてもよい刺激を受けました。現場教師として少しでも児童の言語技術を高めていけたらと思いました。ありがとうございました。
- 19 増田さんに誘われて、今回来る決断をしました。久しぶりにお会いでき話をすることができて、とてもよかった。
- 20 ・会員証に申し込み方法を載せていただくとよい。・教材文の下に行番号がある程度ふつてあるとわかりやすい。
- 23 若い先生、大学生も多く参加していて、とてもよいことと思いました。これからの先生方により刺激を与えられた大会であった。
- 24 成果、課題をしっかりと示して欲しかった。
- 26 最後に大内先生がお子さん連れでいらっしやった先生の志に触れられ、学会員として感銘を受けました。
- 30 色々な話がきけて、勉強になりました。おもしろかったです。ありがとうございました。
- 31 今回、初めてこの学会に参加させていただきました。初めての場で少し緊張もありましたが、先生方のお話や模擬授業に引き込まれました。楽しく学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 32 お世話になりました。 以上■